

## 論文

- 青森県における「方言文学」の定義改善へ  
ソロモン ジョシュア リー 1
- “からだで学ぶ” 外国語教育  
バードセール ブライアン 15
- 恋人間暴力に対する1次予防プログラムに関する探索的検討  
—ネガティブな相互作用における対処行動の行使可能性に着目して—  
古村健太郎, 相馬敏彦, 山中多民子, 杉山詔二 27
- 教養教育英語科目におけるVELC Test<sup>®</sup>の導入と結果分析  
横内裕一郎, 立田夏子 39
- 大学教養教育における地域アート実践の試行  
高橋憲人 49

## 研究ノート

- 教養教育科目と言語学習センターをつなぐ  
—協働で学ぶ経験学習—  
多田恵実 65

## 実践報告

- 高等教育機関での多読授業の評価方法  
小野寺進 75
- 大学英語教育におけるモチベーションと学習効果  
ベランド ニック, ソロモン ジョシュア リー, 中村裕昭 85
- 弘前大学におけるプロジェクト・ベースト・ラーニング  
～未来のリーダーを育成する新しい道～  
バーマン シャーリー ジョイ, 多田恵実 95
- 動画によるWritingの添削指導の可能性  
—添削の時間と労力を無駄にしないために—  
佐藤 剛 105
- Moodleを用いた定期試験への学生への反応  
横内裕一郎 117

## 目 次

## 論 文

- 1) New Perspectives on “Dialect Literature” in Aomori Prefecture  
.....Joshua Lee SOLOMON 1
- 2) Embodied Learning for Foreign Language Education  
..... Brian J. BIRDSELL 15
- 3) 恋人間暴力に対する1次予防プログラムに関する探索的検討  
—ネガティブな相互作用における対処行動の行使可能性に着目して  
..... 古村 健太郎、相馬 敏彦  
山中 多民子、杉山 詔二 27
- 4) 教養教育英語科目におけるVELC Test<sup>®</sup>の導入と結果分析  
..... 横内 裕一郎、立田 夏子 39
- 5) 大学教養教育における地域アート実践の試行  
..... 高橋 憲人 49

## 研究ノート

- 1) Learning by Experience  
— Connecting Liberal Arts Classes with Language Learning Center  
..... Megumi TADA 65

## 実践報告

- 1) 高等教育機関での多読授業の評価方法  
..... 小野寺 進 75
- 2) Motivation and Learning Effects in University English Education  
..... Nick BELLANDO, Joshua Lee SOLOMON  
and Hiroaki NAKAMURA 85
- 3) Project Based Learning at Hirosaki University  
—A New Path to Cultivate Tomorrow’s Leaders  
.....Shari Joy BERMAN and Megumi TADA 95
- 4) 動画によるWritingの添削指導の可能性  
—添削の時間と労力を無駄にしないために—  
..... 佐藤 剛 105
- 5) Moodleを用いた定期試験への学生への反応  
..... 横内 裕一郎 117

## 「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」投稿要項

平成28年11月22日

教養教育開発実践センター編集委員会承認

改正：平成30年7月19日

1. 「教養教育開発実践ジャーナル」は、高等教育に関する実践的・学術的研究を促進し、「教養教育」の改善に資するために、その実践的・学術的研究の成果を公表することを目的として刊行する。
2. 発行は原則として年1回、3月末とする。
3. 原稿の締切は、年度毎に編集委員会が定める。
4. 「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載する原稿は、次に掲げる(1)～(5)に属するものとし、掲載の可否は編集委員会が判断する。ただし、(1)論文、(2)研究ノートについては査読審査を経たものに限る。なお、(1)論文、(2)研究ノートとして掲載ができないと編集委員会が判断した場合、他の区分として再投稿することを可能とする。
  - (1) 論文：教養教育に関する論文
  - (2) 研究ノート：教養教育に関する研究ノート
  - (3) 実践報告：教養教育に関する実践報告
  - (4) 書評：教養教育に関する著書の書評
  - (5) その他
5. 論文等の原稿は、和文（横書・縦書）又は英文を原則とする。
6. 論文等の原稿は、和文20,000字以内、英文6,000語以内を目安とする。
7. 論文等は複数編投稿しても良いものとするが、それぞれの論文等が独立し完結したものでなければならない。
8. 原稿の作成に際しては所定の執筆要項（別掲）に従うものとする。
9. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
10. 別刷を希望する場合、経費は著者負担とする。
11. 「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載された論文等の著作権及び電子化の権利については、以下のとおりとする。
  - (1) 掲載された論文等の著作権は、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）に帰属する。
  - (2) 当該論文等について、執筆者本人が学術教育目的等で使用する場合（執筆者自身による著作編集物への転載、掲載、ネット配信、外国語への翻訳、配布等）、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）は無条件で許諾する。
  - (3) 掲載された論文等は電子化し、原則としてHP、弘前大学リポジトリ等で公開する。
12. 投稿原稿は他誌に未発表のものに限る。

### 附 則

この要項は、平成28年11月22日から施行する。

### 附 則（平成29年8月4日）

この要項は、平成29年8月4日から実施する。

### 附 則（平成30年7月19日）

この要項は、平成30年7月19日から実施する。

## 「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」執筆要項

平成28年11月22日  
 教養教育開発実践センター編集委員会承認  
 改正：平成30年7月19日

1. 原稿は原則として電子ファイルで作製し、メール等で電子ファイルを担当者（執筆申し込みの際に送付先を連絡します）にお送り下さい。また、併せて、電子ファイルを印刷したものに後述の指定事項を記入した紙原稿を添えて下さい。なお、電子ファイルは、PDF、EPS、一太郎、Word、Excel、PowerPoint、TIFF等の一般的なファイル形式として下さい。（TEX, LATEX等の組版原稿には対応できません。）
2. 提出原稿は完成原稿とし、図表（写真を含む。）はなるべく少数にとどめ、図表ごとに電子ファイルを一般的な形式で作成し、原稿の電子ファイルと併せて提出して下さい。（作図イメージに近い刷り上がりとするためには、論文として印刷される大きさで作ったPDFファイルをお勧めします。）なお、写真データの解像度は原則300dpi以上として下さい。図表は白黒の刷上がりになります。
3. 原稿の書式は、次のとおりとします。
  - (1) 和文原稿  
 横書きの場合はA4判・1段組、48字×42行を標準とし、フォントサイズは10ポイントを原則とします。縦書きの場合は、A4判・2段組、33字×27行を標準とし、フォントサイズは10ポイントを原則とします。
  - (2) 英文原稿  
 A4判・1段組、シングルスペースで38字×45行を標準とし、フォントはTimes New Roman、フォントサイズは12ポイントを原則とします。
  - (3) 和文・英文原稿共通  
 図表の提示方法はAPA論文執筆マニュアル（American Psychological Association: APA, 2009）の形式に準じた形式とするが、執筆内容や分野の特性に応じて適宜変更しても良いこととします。
4. 原稿は、論文題目、要旨、キーワード、本文、参考文献、付録の順で記載して下さい。
5. 論文題目、著者名及び所属は和英両語で記載して下さい。
6. 本文の前に要旨（Abstract）及びキーワードを置いて下さい。要旨は、和文の場合は400字以内、英文の場合は200語以内とし、キーワードは最大5語程度として下さい。
7. 母語でない言語で原稿を執筆する場合には、母語話者によるチェックを受けて下さい。原稿提出の際には、校正を受けた証明を提出して下さい。
8. 参考文献は本文末尾に一括して記載して下さい。なお、参考文献の書き方については、APA論文執筆マニュアル 第6版に記載の方法に従い、和文原稿の場合下記の例を参考に、著者・（発行年）・論文のタイトル、ジャーナルのタイトル、掲載ページ数等の情報を必ず入れて下さい。

### 参考文献の記載例

英文原稿（APA, 2009, pp198-215のうち、特に必要なものについて発行年の情報をyearに書き換えたものを提示した）

#### 書籍

Author, A. A. (year). *Title of work*. Location: Publisher.

Editor, A.A. (Ed.). (year). *Title of work*. Location: Publisher.

#### 書籍の一部の章

Author, A. A., & Author, B. B. (year). Title of chapter or entry. In A. Editor, B. Editor, & C. Editor (Eds.), *Title*

*of book* (pp. xxx–xxx). Location: Publisher.

学術論文

Author, A. A., Author, B. B., Author, C., C. (year). Title of article. *Title of Periodical*, xx, pp–pp. doi: xx.xxxxxxx

注：doiがない文献の場合は記載不要。学術論文のxxは巻号。

和文原稿

書籍

著者氏名. (発行年). 書籍のタイトル. 出版された都市: 出版社

書籍の一部の章

著者氏名., & 著者氏名. (発行年) 章のタイトル. 編者氏名., 編者氏名 (編). 本のタイトル (pp. xxx–xxx).

出版された都市: 出版社

学術論文

著者氏名., 著者氏名., & 著者氏名. (発行年) 論文タイトル. 雑誌タイトル, xx, pp–pp. doi: xx. xxxxxxxxxxxxxx

9. 特別に指定したい事項は、その該当箇所及び指示内容を紙原稿内に朱書するなどして明示して下さい。
10. 原稿の提出に際しては、所定の「投稿申込用紙」に必要事項を記載のうえ、添付して下さい。

附 則

この要項は、平成28年11月22日から実施する。

附 則

この要項は、平成30年7月19日から実施する。

## 教養教育開発実践センター編集委員会

編集委員長	片岡俊一（大学院理工学研究科）
編集委員	今田匡彦（教育学部）
	今泉忠淳（大学院医学研究科）
	城田農（大学院理工学研究科）
	中村裕昭（教育推進機構 教養教育開発実践センター）
	横内裕一郎（教育推進機構 教養教育開発実践センター）

### 編集後記

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」第4号が刊行の段となりました。執筆者の皆様は勿論、査読などにご協力頂いた皆様、編集作業に関わった事務職員の皆様、編集委員各位の協力を得て、無事にここまでたどり着けました。ご協力に改めて感謝いたしております。


この2年間の報文数は7編でしたが、今年度は11編と増えました。査読審査を経た論文が多いのが、今号の特徴です。掲載された報文は、例年投稿頂いてる英語教育に加え、多岐に渡るものでした。編集に一読させて頂きましたが、当校の教養教育の範囲の広さを改めて確認した次第です。今年度の8月には第69回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会が本学を当番校として、当地で開催されました。その際にも当校の教養教育の広がりを感じましたが、その再確認になりました。

今年度は、上記の研究会があったため、これまでにないタイトなスケジュールになってしまいました。加えて、査読プロセスについては改善の余地を痛感しました。今後は、事務手続を含めて編集プロセスの改善に努めて行きたいと思っています。皆様のご批正を頂けたら幸いです。今後とも、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

(片岡)

### 『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』第4号

---

発行人	弘前大学 教育推進機構 教養教育開発実践センター
編集	教養教育開発実践センター編集委員会
連絡先	〒036-8560 青森県弘前市文京町1 学務部教務課教務グループ 教養教育担当 電話：0172-39-3104 E-mail：jm3104@hirosaki-u.ac.jp
発行所	弘前大学出版会  〒036-8560 青森県弘前市文京町1 電話：0172-39-3168 FAX：0172-39-3171
発行年月日	2020年3月31日（非売品）
印刷・製本	やまと印刷株式会社

---

---

**ARTICLES**

- New Perspectives on “Dialect Literature”  
in Aomori Prefecture Joshua Lee SOLOMON 1
- Embodied Learning for Foreign Language Education  
Brian J. BIRDSELL 15
- The situation used for primary prevention of dating violence:  
Exploratory studies focused on the possibility of coping behavior  
Kentaro KOMURA, Toshihiko SOUMA  
Tamiko YAMANAKA and Shoji SUGIYAMA 27
- Introduction of VELC Test® to the Liberal Arts English Courses  
and Analyses of Results Yuichiro YOKOUCHI and Natsuko TATSUTA 39
- A Regional Art Practice in Liberal Arts Education  
Kento TAKAHASHI 49

**RESEARCH NOTES**

- Learning by Experience  
– Connecting Liberal Arts Classes with Language Learning Center  
Megumi TADA 65

**PRACTICAL REPORTS**

- A Method of Extensive Reading Assessment  
in the Higher Education Classroom Susumu ONODERA 75
- Motivation and Learning Effects in University English Education  
Nick BELLANDO, Joshua Lee SOLOMON and Hiroaki NAKAMURA 85
- Project Based Learning at Hirosaki University  
– A New Path to Cultivate Tomorrow’s Leaders  
Shari Joy BERMAN and Megumi TADA 95
- Making Use of Video Files to Provide Corrective Feedback  
on L2 Writing: Toward Effective Use of Time and Energy Tsuyoshi SATO 105
- Students’ Reaction to the Moodle-Based Periodical Examination  
Yuichiro YOKOUCHI 117
-